

同志社女子大学一般入試現代文対策講座

○同志社女子大学の現代文について（傾向と分析）

2019年度入試出題出典

- 一月二十六日 山崎正和 『歴史の真実と政治の正義』
一月二十七日 木下長宏 『自画像の思想史』
一月二十八日 平子義雄 『公共性のパラドックス』
一月二十九日 大庭健編 『職業と仕事・・・働くって何？』
2020年度入試出題出典
一月二十六日 佐伯啓思 『「脱」戦後のすすめ』
一月二十七日 鈴木謙介『ウェブ社会のゆくえへ多孔化<した現実社会のなかで』
一月二十八日 岡田尊司 『愛着アプローチ 医学モデルを超える新しい回復法』
一月二十九日 鈴木健 『なめらかな社会とその敵』

【対策について】

☆ 試験直前の時期に何を意識すべきか

とにかく過去問の演習を！（設問のパターンを意識しておこう）

「漢字語句系問題」

本学過去問とセンター試験過去問で最後の仕上げを

「語句・文章挿入系問題」

接続詞はその働きに注目

語句挿入は、選択肢間の意味の違いを明確に

脱文補充は文章の意味のつながりを意識

「文章内容系問題」

とにかくできるだけ早く『本文の着地点（主旨）』を読み取る

☆ 文章を読むスピード、主旨をつかむ精度を上げるためには
『入試問題を読むこと』が最善かつ催促の対処法！！

「文章を読み解く力とはいったい何か？」

現代文は『冒頭』に着目することが必須

論説文の設問の典型的な構造から入試問題を分析

※ 設問が成立するためには、ある一定の条件を満たさなければならない

☆『前提』 ↓ 『問題提起』 ↓ 『論証』 ↓ 『種明かし』

・『前提』がもつ意味合い

・そして『問題提起』が現れる

・『論証』はどのよつに問題に問われるのか

・『主張』は「」で『再確認』される「」

入試問題の設問は、ひとつの物語を効果的に表現する誘導である

— 次の文章を読んで後の問に答えなさい。

グローバル化とは、端的にいえば、「利益」や「幸福」や「自由」を求める人間の欲望の空間的な展開とってよい。グローバル経済は、**A** 世界中のあちこちにキンカ^aが埋まっており、うまくそれを掘りあてた者には多大の利益を与え、さらに人間の自由を世界中に拡張する巨大な舞台であるかのように思われた。国家というボーダーは「利益」と「自由」と「幸福」に対する制約だと宣伝されたのである。そして、「利益」「自由」「幸福」の追求こそが近代の価値であるとすれば、グローバルズムとは **B** 近代化の必然のキケツ^bであった。

「利益」や「自由」や「幸福」へ向けられたあくなき欲望の空間的な延長がグローバルズムであったとすれば、その時間的な延長は成長シジョウ主義^cであり、進歩主義もしくは革新主義であった。

「革新」は、旧来の価値や制度の破壊をよしとし、伝統的で **I** 的なものにはさしたる価値を求めない。過去は否定されるべき対象となり、過去の否定の上にはしか未来は創造できないと考える。その基軸になるのが技術革新であった。技術革新とはただ新規な技術の発明というだけのことではない。それは、エネルギー資源のあり方から、消費文化、生活様式、社会構造まで含めた社会的様式の **II** 的な革新である。かつて鉄道や自動車の技術革新は社会構造そのものを変えたし、テレビや通信もそうである。近いところではITや金融工学もそうであろう。技術の革新によって経済は無限に発展し、それは、個人の自由や幸福追求の機会を無限に拡張するものであった。ここに時間を通じた歴史の「進歩」を見ようとする信念は、マルクスからシュンペーター、さらには現代のアメリカ経済学者にいたるまで、ほぼ共有されていた。

このような、近代的価値の空間的な延長であるグローバルズムと時間的な延長である進歩主義(革新主義)を合わせて、「近代主義」と呼んでおこう。

とすれば、問題は、ただグローバル経済の不安定性や成長戦略の枯渇といったようなことではない。システムの機能不全ではなく、問題は、われわれの価値観にあるからだ。

なぜなら、いくらシステムの不完全性が指摘され、グローバル経済の矛盾が論じられようとも、もともと基底的なレベルにおいては、われわれは近代主義を希求してきたことは否定できないからである。もともと基底的なレベルとは、いっそうの自由を、いっそうの利益を、いっそうの幸福を、結局はわれわれは求め続けてきた、ということにはかならない。誰もがその価値を正面から疑おうとはしなかったからである。

したがって、もしもグローバル経済がもはや先には進めないほどの矛盾をロテイ^dしつつあるのだとすれば、それは時間軸に投射した革新主義、成長主義の限界でもある。すなわちここでわれわれは、「近代主義」そのものの臨界点にまで達したとみておく必要がある。問題はグローバルな資本主義というシステムにあるというより、近代主義という価値そのものにあるということだ。「グローバルな資本主義」なるものも、実は近代主義を構成するひとつの価値なのである。

今日、グローバルズムのもたらす **III** 的不安定に対してふたつの対抗策が論じられる。ひとつは「地域」の可能性という「ローカリズム」であり、もうひとつは戦略性をもった強い国家の必要という「ステイティズム」である。

この両者を私はとくに難じるつもりはないが、しかしそれだけでは不十分であろう。問題がもしも「近代主義」という価値のレベルにあるとすれば、事態ははるかに深刻だからである。「ローカリズム」は、あまりに「近代主義」という価値のもつ強力を軽視する傾向にあり、「ステイティズム」は、それ自体が変形された近代主義だからである。しかも、**C** 「ローカリズム」は「国」を軽視し(時には対立さえし)、一方「ステイティズム」は「地方」を無視する傾向がある。これではうまくゆかない。

近代の日本において「地方」を論じることがむずかしい。多くの場合、「地方」は封建的因習や村落の集団主義の温床^eとみなされ、その逆の場合には失われたノスタルジーの対象でしかなかった。いずれにせよ「都市化」「近代化」が当然の前提となっていたのである。

かつて農商務省の官僚として地方の農業政策にもタズサ^fわった柳田国男は、近代化のなかで地方が疲弊し棄却されてゆくことを、無念な思いとともに、**D** 致し方ないことだと考えていた。都市の提供する「利益」「自由」「幸福」はとくに若者を引きつける。消費文化の享楽に対抗できるものもはや地方にはない。近代とは **N** 的に地方生活を枯渇させるものであった。そのなかで地方が生き残るとすれば、地方そのものが「近代化」するほかないのである。

そのことを柳田は残念に思い、悔しがったではあろうが、**E** 批判するわけではなかった。しかし、同時に柳田は、地方の民俗誌を調査し、まだ残されていた地方の「記憶」を記録してゆくことになる。柳田にとっては、地方とは「利益」「自由」

「幸福」とはまったく対極の価値によって維持される場所であった。そこでは人々の生が、田畑や森という自然とけ合い、精神の過剰な跳(いびき)梁(はり)は山の神や先祖という「聖なるもの」によって抑制されていた。つまり、地方的生とは、人、神、先祖、自然がとけ合って成り立っていた。いいかえれば、世俗の生は、宗教的なもの、歴史的なもの、自然的なものによって組み立てられていたわけである。

地方とは、ただ農村共同体でもなければ封建的家父長の温床でもなく、また単なる農耕産業地帯というだけではない。それは、山の神や森の自然などと一体化した様々な表象体系に囲まれた生であった。そして、それこそが実は「日本」であったのだ。

そうだとすれば、世俗の生をそのすべてから断ち切ろうとした戦後、あるいはもう少し広くいって近代日本が、地方を失ってゆくことは必然というほかない。しかもそれは、「地方」という以上に、「日本」を失ってゆくこともある。

地方は基本的に貧しい。そこにきらびやかなものは何もない。さびしく厳しい。このような場所における生を支えるには、共同で守るべき神や先祖や自然がなければならなかったであろう。そこに留まり、その場所に「住まう」ためには、神と先祖を求めざるはなかつた。しかし神と先祖を生活の軸にすることで、おそらくはもっと大切なものを手にしていた。それは、共同の生であり、自我の抑制であった。自らの「利益」と「自由」と「幸福」を求めているのは、生活が成り立たないからである。そこから他者への配慮、和の精神、自然への感謝、先祖への思いがうまれてきた。それらは日本人の価値の基底を作り、生活の慣習に根をおろしてゆく。

近代主義の精神、すなわちグローバリズム的な脱場所化と、進歩主義・革新主義のもつ脱伝統化は、これらの「地方的な価値」とはまったく対立するものである。そして、今日のわれわれの根なし草的状况とは、近代主義にすっかり浸された結果というよりは、実際には、近代主義さえ全面的に受け入れることができない、というところに原因があると思われる。「地方的なもの」は、**V** 的な生としては過去のものとなったが、それがもたらした価値は、依然としてわれわれの精神の奥底に堆積されているように思われる。そして、もしそうだとすれば、それはむしろ、われわれには幾分かの希望ともいえるだろう。「日本」がわれわれの精神の奥底にはまだ残っているということだからである。

ただし、それを自覚するには、今日、世界中で生じている近代主義の行き詰まりに対してもっと絶望する必要があるだろう。「日本」とは、ただそこにあるものではない。それは消えゆくものの自覚的な蘇生でしかないからである。

(佐伯啓思「脱」戦後のすすめ」より。ただし本文の一部を改めた。)

問一 傍線部 a～e と同じ漢字を使うものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。

解答番号は a 1・b 2・c 3・d 4・e 5。

- | | | | |
|---|----------|-----------------|-----------------|
| 1 | a キンカ | 1 日中にカミンをとる | 2 ザツカ店を営む |
| | | 3 責任をテンカする | 4 作文がカサクに選ばれた |
| | | 5 商品がニユウカする | |
| 2 | b キケツ | 1 久しぶりに正月にキセイする | 2 キハツ性の薬品 |
| | | 3 兵役をキヒする | 4 コッキを掲揚する |
| | | 5 壁にキレツが走る | |
| 3 | c シジョウ | 1 イッシン報いる | 2 シセイのよい生徒 |
| | | 3 ショシを貫徹する | 4 話のシュシを理解する |
| | | 5 完成させるのはシナン業だ | |
| 4 | d ロテイ | 1 シテイ関係を結ぶ | 2 人気がテイメイする |
| | | 3 粗品をシンテイする | 4 放課後にコウテイを開放する |
| | | 5 テイボウを築く | |
| 5 | e タズサわった | 1 他部署とレンケイする | 2 ケイガに堪えない出来事だ |
| | | 3 美術にゾウケイが深い | 4 ケイコウ灯を取り替える |
| | | 5 世の中にケイシヨウを鳴らす | |

問二 波線部あ・いの語句は、文脈上、どのような意味か。最も適切なものを次の中からそれぞれ選び、番号で答えなさい。

解答番号はあ 6・い 7。

- 6 あ 温床 ① 受け皿のように働くもの

7

い 跳梁ちやうりやう

- ② 成立するための前提となるもの
- ③ 中心的存在として君臨するもの
- ④ よくない物事を育てるものとなるもの
- ⑤ 理想的な形として現れたもの
- ① 立ち回って努力すること
- ② 思うままにのさばること
- ③ 発展する動きを見せること
- ④ 勢いを失って静かになること
- ⑤ 存在を示し目立とうとすること

問三

空欄A～Eに入る語句として最も適切なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。

解答番号はA

8

・ B

9

・ C

10

・ D

11

・ E

12。

8

A ① あくまで

② おそらく

③ あたかも

④ とうてい

⑤ それでも

9

B ① すべからく

② なまじ

③ もっぱら

④ しょせんは

⑤ まさしく

10

C ① ともあれ

② やはり

③ もっとも

④ まるで

⑤ ともすれば

11

D ① なかば

② ことごとく

③ よもや

④ むしろ

⑤ ひとえに

12

E ① よもや

② なかんずく

③ ひときわ

④ ことさら

⑤ もっと

問四

空欄I～Vに入る語句として最も適切なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。

解答番号はI

13

・ II

14

・ III

15

・ IV

16

・ V

17。

13

I ① 本質

② 合理

③ 必然

④ 表層

⑤ 慣習

14

II ① 典型

② 中心

③ 総合

④ 客観

⑤ 無機

15

III ① 伝統

② 経済

③ 本質

④ 総合

⑤ 国家

16

IV ① 精神

② 歴史

③ 合理

④ 必然

⑤ 主観

17 V ① 世俗 ② 本質 ③ 国家 ④ 合理 ⑤ 観念

問五 傍線部ア「近代主義」と呼んでおこう。」とあるが、「近代主義」とはどういうものであるか。その説明として最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。解答番号は 18。

① 国境を越えて「利益」「自由」「幸福」を追求する者がより多くの見返りを得られる状況と、技術革新を中心に、過去から学ぶことで未来を作ろうという考え方を合わせたもの。

② 広がり続ける人々の「利益」「自由」「幸福」への欲望に対する国家の新しいあり方の模索と、技術の革新によって経済を無限に発展させようとする考え方を合わせたもの。

③ 「利益」「自由」「幸福」を求める人間の欲望を膨張させる行き過ぎた資本主義と、個人の欲望が絶え間ない新たな技術の発明につながるという考え方を合わせたもの。

④ 「利益」「自由」「幸福」を求める人間の欲望が国家という枠組みを越えて展開される状況と、技術革新によって消費文化や生活様式などを変化させ続けようとする西洋の伝統的な考え方を合わせたもの。

⑤ 「利益」「自由」「幸福」を求める人間の欲望が世界へと向けられる状況と、技術革新によって過去を否定し成長を続けようとする考え方を合わせたもの。

問六 傍線部イ「問題は、われわれの価値観にあるからだ。」とあるが、この「価値観」とはどのようなものか。その説明として最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。解答番号は 19。

① 近代主義の価値を過剰に「利益」「自由」「幸福」を追い続けることをよしとするもの。

② 近代主義が地方を枯渇させることを知っていながら見て見ぬふりを続けようとするもの。

③ 近代主義がグローバルな資本主義よりも優れた考え方であると信じて疑おうとしないもの。

④ 近代主義がもたらす「利益」こそが日本の「幸福」につながると思いつきながら、他の方法を拒絶するもの。

⑤ 近代主義が唯一無二の成長の手段ではないことに気がつきながら、他の方法を拒絶するもの。

問七 傍線部ウ「近代日本が、地方を失ってゆく」とはどういうことか。その説明として最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。解答番号は 20。

① 地方は神聖な場ではあるが近代主義の有する価値の強力を軽視して、近代化に進む日本人の心をつなぎとめることを怠り、忘れ去られるということ。

② 地方は「幸福」や「自由」を早くに捨て去ったため、近代化に魅了された日本人にとっては地方は足かせとしか感じられず、顧みられなくなること。

③ 人と自然・宗教とが融合して成り立つ地方的な価値は、場所や伝統から自由であるとする近代主義とは相容れず、顧みられなくなること。

④ 伝統を維持することだけを重視する地方の価値観は、近代主義の「過去は否定されるべき」という考え方とは相容れず、地方は近代化する日本から取り残され孤立すること。

⑤ 地方は自然を信仰の対象にしていたが、技術中心の近代主義によってそれらが否定され、地方の精神の根幹が失われてしまうということ。

問八 傍線部エ「神と先祖を求めるほかなかった。」とあるが、地方における「神や先祖」の役割を説明したものとして適切でないものを次の中から選び、番号で答えなさい。解答番号は 21。

① 貧しく若者を引きつけるもののない場所で生きるための精神的な拠り所となるもの。

② 封建的家父長制度の象徴として地方の価値観の基盤となり近代化を妨げてきたもの。

③ 共同の生活を成立させるため個人的な「利益」や「自由」よりも優先されるもの。

④ 地方の生の軸となり日本人の価値観の基盤が形成される際に根幹となるもの。

⑤ 「聖なるもの」としてさびしく厳しい場所で自然とともに地方的な生を作り上げてきたもの。

問九 傍線部オ「今日のわれわれの根なし草的状况」とはどういう状況か。その説明として最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。解答番号は 22。

① 長年にわたって恩恵を享受してきた近代主義が限界を迎えたにもかかわらず、それに代わるシステムを見つけない日本人の状況。

② 日本人はこれまで近代主義を信じてきたので、それとは対立する自分たちの精神の中にある地方的なものに依拠するこ

とをためらっている状況。

③ 地方的なものが失われてしまっているため、近代主義を捨てた日本人の精神や生活の拠り所となるものがなにもないという状況。

④ 日本人が地方的なものを失いながら精神の中には地方的なものが根付いているために、近代主義に浸りきることもできない状況。

⑤ 近代主義を受け入れることができない日本人が、かつて近代主義に棄却された地方的なものを取り戻すための方策を見つけれない状況。

問十

本文の内容と合致する記述として最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。解答番号は

23。

- ① 空間的、時間的に展開、延長を続けるグローバル化は、従来の国家や地域などの境界を再編成することにつながった。
- ② グローバル経済に生じた矛盾は、革新主義、成長主義、ひいては近代主義に限界が訪れたことを示すものといえる。
- ③ 「ステイティズム」は地方を無視する傾向があるため、近代主義と同じく日本人には受け入れられないと考えられる。
- ④ 柳田国男の調査によって、地方の生活が自我を抑制するものであったため地方が近代化できなかったことがわかった。
- ⑤ われわれの精神の奥底に残っている「日本」的なものによって近代主義の行き詰まりを解消することができる。